

(様式1) 令和元年度 那須烏山市立境小学校 学校評価報告書

| 項目 | 重点目標・具体策 (○：市の重点目標) (◇：本校の重点目標) | 取組状況・成果・課題 | 評価 | 改善策 | 学校関係者の意見等 |
|-----------|---|---|----|--|---|
| 学校運営・教育課程 | ○「生きる力」を育む特色ある教育課程の編成、実施に努める。 | ○学校教育において重視すべき3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を3つの柱として、バランスのよい児童の育成に努めた。 ○学校の働き方改革に対応するため、教育課程や学校行事などの在り方を見直し、来年度に向けての調整を行った。 ●行事については、新学習指導要領の実施に向けて内容を精選し、在り方について検討する必要がある。 | A | ○本校の児童や地域の特色を考慮した上で、「生きる力」を育成する教育課程の工夫を考えていく。 ○授業時数の確保や日課表、補教体制等の管理を適切に行った。 ○学校の働き方改革に対応した、行事の精選を検討していく。 | ○児童の生きる力を身につけさせ、学習指導に力をいれていただき、先生方には感謝している。 ○小規模校の特色を活かした教育活動が実践されている。また、保護者や地域との関係も良好である。 ○教職員の自己評価を元に、評価の低いものを洗い出し、改善点を検討してほしい。 |
| | ◇児童の実態や地域の実情、保護者・教職員の願いを考慮した特色ある学校づくりに努める。 | ○教職員間で児童や地域の実態を把握し、情報交換を密に行い、連携・協力しながら指導にあたる体制づくりを行い、教育課程の編成に取り組んだ。 | B | ○教育課程の編成について、更に工夫・改善を加えながら、継続して取り組んでいく。 | ○SNSを悪用した事件が多発しているの で、正しい知識や使用法について指導してほしい。 ○教職員の資質向上を図りながら、児童と教員の信頼関係の向上に努め、いじめや不登校の児童がないようお願いしたい。 |
| | ◇特別の教育課程実施により、コミュニケーションの楽しさを体感できるような授業を工夫する。 | ○ALTとの連携体制をさらに強化して、授業の工夫改善に活かしていきたい。 ○ALTの効果的な活用を図り、全校体制で国際理解教育、外国語教育の指導を計画的・組織的に実施できた。 | B | ○児童や地域の実態をふまえ、系統性・関連性を意識した全体計画・年間指導計画の見直しが必要である。 ○ALTが児童と触れあえる環境づくりや時間の工夫に努めた。 | ○国際社会に対応できるコミュニケーション能力が身につくよう指導していただきたい。 |
| 学習指導 | ○知的学力を保障し、学ぶ意欲を引き出し、コミュニケーション能力を育む確かな指導力に裏付けられた質の高い授業の展開に努める。 | ○学習指導主任が中心となり、学校課題を設定し、一人1回の研究授業と授業研究会を通して授業力の向上に努めてきた。 ○学力向上推進リーダーを活用し、ポイントをしぼった授業力向上の取組に努めた。 ●児童の表現力を高めるために、さらなる授業の改善や指導法の工夫が必要である。 | B | ○学力向上改善プランを検証しながら、更に継続して指導力の向上に努める。 ○道徳の授業において、より一層資料の研究や指導方法の工夫・改善に努め、豊かな心の育成を図っていく。 ○「話す」「聞く」「話合う」指導を重点化して指導にあたるなど、更に研究を深め、学びあいのスキルを高めていく。 | ○コミュニケーション能力を向上させ、自分と他者との意見交換がスムーズにできるような指導をお願いしたい。 |
| | ◇授業の工夫・改善を図り、児童の意欲を高め、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成に努める。 | ○スーパーティーチャー研修の成果を意識して指導に当たるよう心がけてきた。 ○校内漢字テスト・計算テストの定期的な実施や家庭学習強調週間の設定、自主学習ノートのチェック、家庭学習リーフレットの作成を通して、自主学習に意欲的 | B | ○スーパーティーチャー研修の成果を更に活用し、授業改善に努めていきたい。 ○家庭学習の習慣化のために、さらに家庭と連携し、工夫・改善を加え、家庭学習の充実を図っていく。 ○プログラミング教育の実施に向けて、I | ●教員同士で授業方法、児童への接し方などについて情報共有してほしい。 ○授業で児童がわからなかったところをメモで伝えてくださったり、自主学習のやり方のアドバイスをいただいたり、とても親身になって指導していただきありが |

| | | | | | |
|--------|---|--|---|--|--|
| | | <p>に取り組む児童が増えた。</p> <p>○ICTを活用した授業の展開やパソコン教室を通して、児童の情報処理能力の向上がみられた。</p> | | <p>CTの基礎知識の定着とパソコンに親しみ興味関心をもって学習に取り組める環境づくりに努める。</p> | <p>たかった。</p> |
| 児童生徒指導 | <p>○学級を核とした、相互理解に基づく望ましい集団づくりに努める。</p> | <p>○人権週間を年3回設定し、意識を向上させる取組ができた。</p> <p>○学級経営や学業指導の充実を図るとともに、小規模校の特性を活かし、組織的な対応に努め、全職員で望ましい集団づくりに取り組んできた。</p> <p>○花立タイムでの活動や縦割り班活動を通して、上学年が自覚をもって下学年の面倒を見られるようになってきた。</p> <p>●学校、学級の一員としての決まりを守るなどの規範意識が低い児童が見られた。日常の指導について、学級の実態に応じた工夫・改善が必要である。</p> | B | <p>○日常の指導において、道徳教育や学業指導の充実を目指した取組を強化していく。</p> <p>○より高いレベルの集団づくりを目指し、保護者と連携しながら、更に工夫・改善をしながら取組を継続する。</p> <p>○学級担任だけに任せるのではなく複数の職員で指導にあたる体制づくりに努めた。</p> | <p>●児童の意欲低下につながる言葉遣いや注意する際の対応を考えてほしい。</p> <p>○スクールバス通学における登下校時の乗車指導により、児童の車内での言動をバスの運転者の方や先生方に監視していただき、いじめや悪ふざけを見かけたときは声かけ等の指導を望む。</p> |
| | <p>◇全教職員の共通理解と協働体制のもと、あいさつや言葉遣いなど基本的な生活習慣の確立ときまりを守るなど規範意識の高揚に努める。</p> | <p>○職員会議等で児童指導関係の情報交換を週1回実施し共通理解を深めるとともに、組織的に児童指導を進めるよう努力してきた。</p> <p>○児童の問題行動等については、児童指導主任を中心に全職員で計画的・組織的に対応することができた。</p> <p>○立腰指導については、学級での指導を中心に継続指導している。</p> <p>●日常起こる様々な事例に対応できるよう職員同士が密に連携し、情報交換できる場の設定が必要である</p> | B | <p>○児童指導体制の確立を更に深め、道徳教育や人権教育の充実を図りながら規範意識を高めていく。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立のためには、重点指導事項を設定したり、ABC/R運動の展開の工夫を図ったりするなど改善を加え、全校体制の下根気強く継続していく。</p> <p>○問題が起きたとき速やかに対応できるように、児童指導主任を中心とした相談体制を構築した。</p> | <p>○児童の挨拶などについては、家庭教育の必要性が大きく、学校だけでは徹底は難しいので、保護者や地域と連携協力しながら取り組んでいきたい。</p> |
| 特別支援教育 | <p>○関係諸機関と適切な連携を図った、児童生徒一人一人に応じた指導に努める。</p> | <p>○すこやか推進室との連携を通して個に応じた指導が図られている。</p> | A | <p>○引き続きすこやか推進室との連携に努め、更なる充実を図る。</p> <p>○支援教育の基本的な考え方や適切な支援の在り方等についての職員研修の時間を設ける。</p> | <p>○保護者や地域に学校の指導方針を理解していただき、連携を図りながら、さらなる充実を望みたい。</p> |
| | <p>◇保護者との連携を踏まえ、関係機関との連携を図りながら、組織として個に応じた支援・指導の充実を図る。</p> | <p>○特別支援教育コーディネーターを中心として、個別の応援計画の作成等の校内研修により、共通理解を深め、指導体制を整えることができた。</p> <p>○個別懇談や学年懇談会等保護者との話合いの機会を設け、一人一人のニーズを把握し、個に応じた支援・指導の充実</p> | A | <p>○児童の指導方針等を保護者に理解していただき、連携を更に充実させていく。</p> <p>○交流の時間など工夫改善してチームとして対応できる体制の構築に努めた。</p> | <p>●児童の相談があったときは、よく話を聞き、児童の気持ちをよく理解した上で指導を望む。</p> |

| | | | | | |
|---------|--|---|---|--|---|
| | | めた。 | | | |
| 保健・安全管理 | ○心身ともに健康で明るく安全な生活を送るための基礎が培われるよう、健康教育の充実に努める。 | ○朝の体力づくり（長距離走・50m走）やマラソン、なわとび等の取組により、児童が意欲的に体を動かす姿が見られた。 ○養護教諭を中心として、学期ごとの身体計測や児童集会での保健委員会の発表等を通して、児童に健康について考えさせる機会を設けている。 ○月毎の目標を提示し、時期や児童の実態に応じた指導がなされている。 | A | ○児童の意欲をより高めるために、カードなどに継続して自分の記録を記入するなどの取組を検討した。 ○基本的な衛生習慣を身に付けさせるために、更に継続して充実に図っていく。 | ○健康づくりや地域での育成会など継続して充実した活動を望む。 |
| | ◇「歯と口の健康づくり推進事業」の継続等健康教育の推進を図るとともに、自分の身は自分で守る意識を高め、事故を防止する安全指導の充実に努める。 | ○歯科衛生士による歯科指導や学年懇談等を活用した保護者への啓発など、継続して「歯と口の健康づくり」に取り組んでいる。 ○交通安全教室や防犯教室等を通して、事故防止に対する意識付けを図ってきた。 ○不審者・地震・火災・土砂災害の避難訓練を工夫を加えながら実施し、種々の災害に対応できるよう安全指導の充実に努めた。 | A | ○「歯と口の健康づくり」は、保護者への啓発を強めていく。 ○自転車乗車時のヘルメット着用や廊下の歩行の仕方等も継続して取り組んでいる。 ○あらゆる状況を想定した学校安全計画危機管理マニュアルの作成に努めた。 | ○児童の発達段階において、歯と口の健康づくりは大変重要なことである。保護者への啓発だけでなく、市へ連絡をとり、実際に児童への指導をしていただくとよい。（生活習慣の見直し） |
| 地域との連携 | ○地域連携教員を要として、地域の特性を生かした教育活動を展開し、地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。 | ○生活科や総合的な学習の時間等において、地域の人材の力を借りて様々な教育活動を展開することができた。 ○特に郷土芸能（お囃子）活動やオオムラサキ、国見みかん等地域の資源を活用した取組に成果があがった。 ○学校支援ボランティアの活用により、地域の方々が学校に来る機会が増え、地域との交流につながった。 ●地域連携教員による地域との関わり方については研究が必要である。 | B | ○日常的に地域に親しむ活動を取り入れるなど、地域連携事業の更なる充実に図っていく。 ○学校支援ボランティアを募集して充実した教育活動を展開させるとともに、学校が地域活性化の拠点となるよう努めていく。 ○他校の実践事例などを学ぶ研修等に参加して地域との連携を推進するよう努めた。 | ○開かれた学校づくりの観点から学校・家庭・地域が一体となった取組を行い、各地域のイベントにも積極的に参加し、郷土愛を育み健全な育成に期待したい。 |
| | ◇家庭や地域への情報発信を密にするなど連携を図り、信頼される開かれた学校づくりに努める。 | ○学校だよりや学年だより、ホームページの更新等により、情報発信がよくなった。 ○集団宿泊的行事においては、リアルタイムでのHPの更新に努めるとともに、メール等で児童の活動の様子を保護者に発信できた。 ○学校行事等に来校する保護者が多く、協力的で、教育活動に対する理解が深まっている。 | B | ○地域や家庭との連携を一層充実させ、信頼される学校づくりに努めていく。 ○情報発信については、HPや学校だより、学級だよりを効果的に使って、より多くの学校の情報を提供していく。 | ●HPの更新が他校に比べて少ない気がする。授業の様子やその日の出来事など、まめに更新していただけるとありがたい。 |